

2026年12月期 第2四半期（中間期）

決算補足説明資料

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2026年8月12日

I 会社概要

II 事業概要

III 2026年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（2月13日公表）

IV 今後の成長戦略

会社概要



- 商 号 株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
- 設 立 1977年11月2日
- 本社所在地 佐賀県鳥栖市藤木町 5 番地の 4
- 代 表 者 代表取締役社長 橋原謙次
- 従業員数 196名（2026年 6 月30日現在）
- 事業内容
 - ・病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売
 - ・OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
- 主要取引先 株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社
株式会社スズケン、アルフレッサ株式会社
株式会社アステム、富士フイルム株式会社 他
- 営業拠点
 - ・本社 ・東京営業所 ・大阪営業所
 - ・名古屋営業所 ・その他各地駐在
- 工場・開発拠点
 - ・本社・工場（佐賀県鳥栖市）
 - ・久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）



本社・工場（佐賀県鳥栖市）



久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）



もっと人のために。

わたしたちは、臨床検査薬を通じ、
確かな技術力で社会へ貢献してまいります。

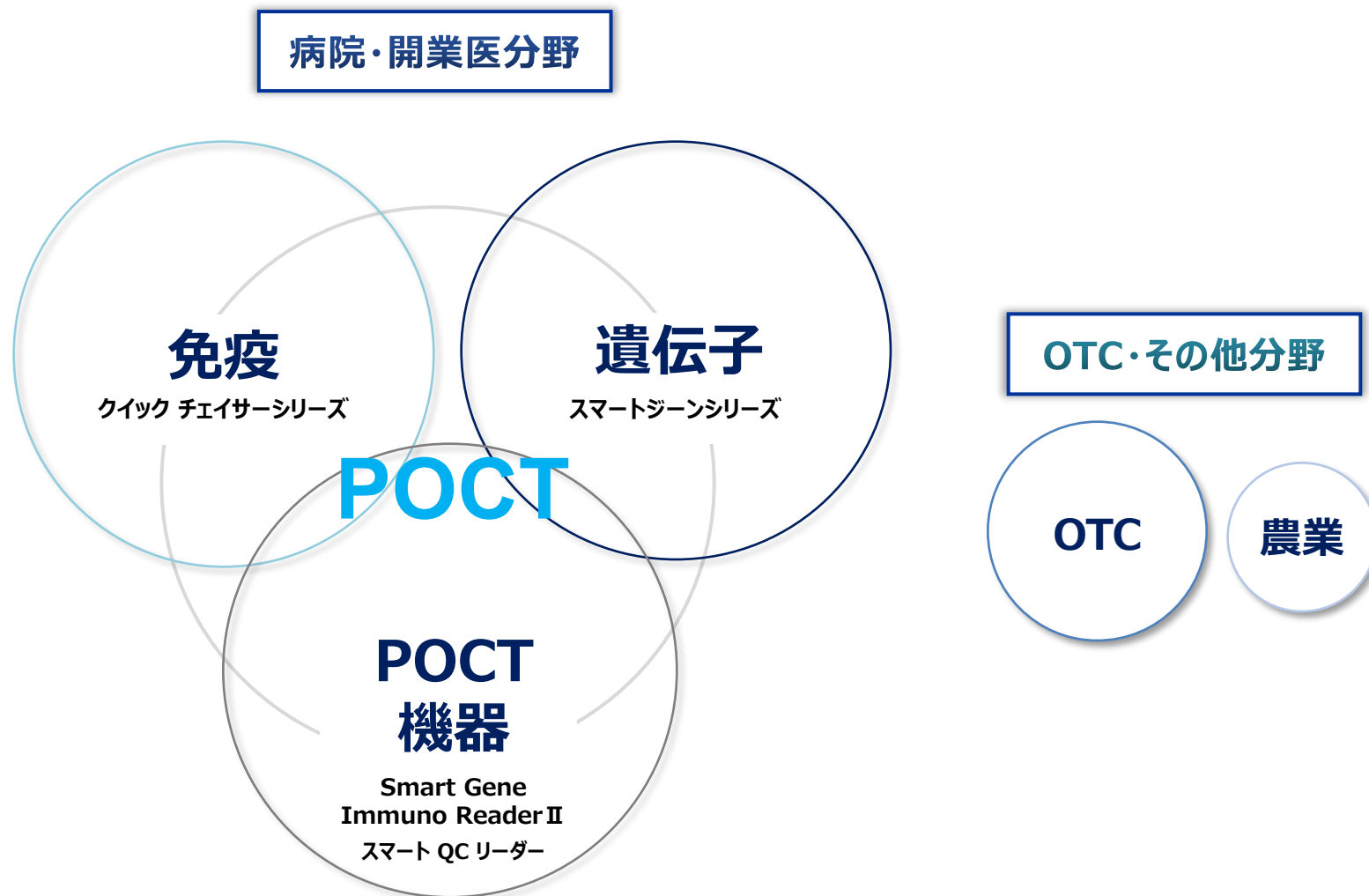
I 会社概要

II 事業概要

III 2026年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（2月13日公表）

IV 今後の成長戦略



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査

(1) POCT迅速診断キット(機器判定・目視判定)



▶ スマート QC リーダー(クイック チェイサーシリーズキット測定用医療機器)

デンシトメトリー分析装置

スマート QC リーダー®



【製品の特長】

- ◆ 選べるモード設定
 - ①ヨミトリ (反応時間経過後に機器が判定)
 - ②ジドウソクテイ (試料滴下後に自動測定)
- ◆ 検査結果は自動でプリントアウト
- ◆ 軽量 (0.7kg)、コンパクトで持ち運び可能
103×220×125mm (幅×奥行×高さ)
- ◆ 時間管理が不要 (※モードによる)

- ◎クイック チェイサーシリーズ (リーダー対応) の読取装置
- ◎機器による客観的な判定 (発色濃度を画像解析) が得られ、目視判定時の迷いを解消



SARS-CoV-2/RSV



SARS-CoV-2



SARS-CoV-2/Flu



Flu A,B



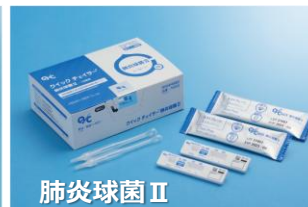
Strep A



Adeno



RSV/hMPV



肺炎球菌 II



肺炎球菌/レジオネラ



Myco

(1) POCT迅速診断キット(目視判定)



クイック チェイサー シリーズ (業界トップクラスのラインナップ)

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

呼吸器感染症検査薬



SARSコロナウイルス/
インフルエンザウイルス



hMPV



RSウイルス

消化器感染症検査薬



ノロウイルス



ロタウイルス/
アデノウイルス



クロストリジウムディフィシル



H. ピロリ

尿糞便検査薬



便潜血

研究用試薬 カルバペネマーゼ検出試薬



新発売
2026年
5月

カルバペネム系抗菌薬に耐性をもたらす代表的な6種のカルバペネマーゼを迅速に検出できるイムノクロマト試薬の開発に成功しました。

(2) POCT機器試薬システム（機器判定）



➤ 高感度感染症迅速診断システム

デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader II



【製品の特長】

- ◆ 早期診断が可能（発症初期の診断精度向上）
- ◆ コンパクト化（省スペース）
- ◆ タッチパネルの採用（操作性・視認性向上）
- ◆ バーコードリーダー搭載（検体ID情報等読取可）
- ◆ 装置による結果判定（判定結果はモニター表示とプリントアウト）

◎ 当社のメンブレン技術と富士フイルム株式会社の写真現像技術を融合した銀増幅反応により高感度化を実現

◎ 2026年 年内上市予定
「RSV／hMPV高感度試薬」

【AUTOシリーズ専用試薬】



(3) 遺伝子POCT機器試薬システム



全自動遺伝子解析システム (PCR・Qプローブ法)

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene



◎ 遺伝子の抽出・PCR増幅・検出を1つのカートリッジ内で行い
コンタミなどのリスクを抑制する簡易迅速な測定操作試薬

◎ 2026年7月 新製品発売 研究用試薬
「スマートジーン NHPH」

◎ 2026年8月 新製品発売 体外用診断薬
「スマートジーン 百日咳菌核酸キット」

◎ 2026年 年内上市予定
「スマートジーン H.pylori S」

【Smart Gene専用試薬】



【製品の特長】

- ◆ 迅速判定が可能
- ◆ 1ステップ自動判定。試薬ロスができません。
- ◆ 核酸分子の配列情報を解析できます。
- ◆ コンパクト設計の卓上タイプ
- ◆ タッチパネルでスムーズな操作

OTC・その他分野の主な製品

OTC（薬局・薬店）向け製品



➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



◎ アリナミン製薬株式会社 販売の「ハイトスターシリーズ」

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



I 会社概要

II 事業概要

III 2026年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（2月13日公表）

IV 今後の成長戦略



➤ 業績ハイライト 第2四半期（中間期）

✓売上高	3,533百万円（前年同期比 11.1%減）
✓営業利益	996百万円（前年同期比 32.5%減）
✓経常利益	1,111百万円（前年同期比 20.5%減）
✓中間純利益	822百万円（前年同期比 19.4%減）

※予想比につきましては、本年度より第2四半期（中間期）の業績予想を公表しておりませんので、記載しておりません。

➤ ポイント

✓前年同期比：

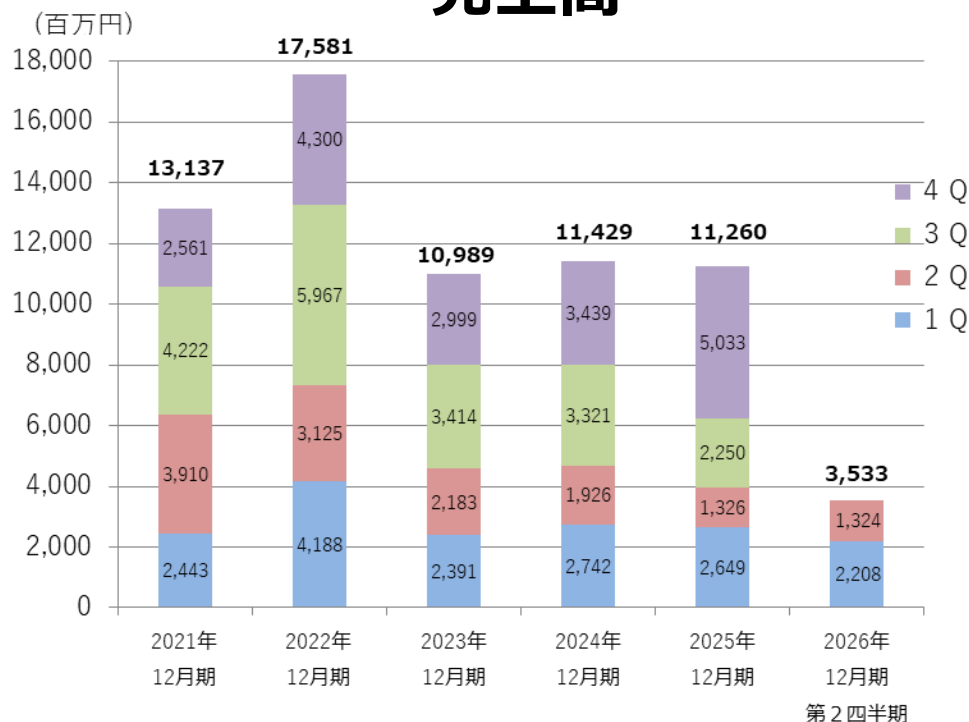
新型コロナウイルス感染症の感染規模逡減のなか、5類移行の影響により、
新型コロナの遺伝子検査キットは売上高は減少、一方、インフルエンザの流行により
新型コロナ・インフルエンザ抗原同時検査キットの需要は増加し、
新型コロナ抗原検査キット全体では前年度と同水準を維持。
インフルエンザは微増となるも、その他の感染症項目は減少。
売上高減少に伴い、各利益も減少。

2026年第2四半期（中間期）決算実績 業績の推移（売上高、経常利益）

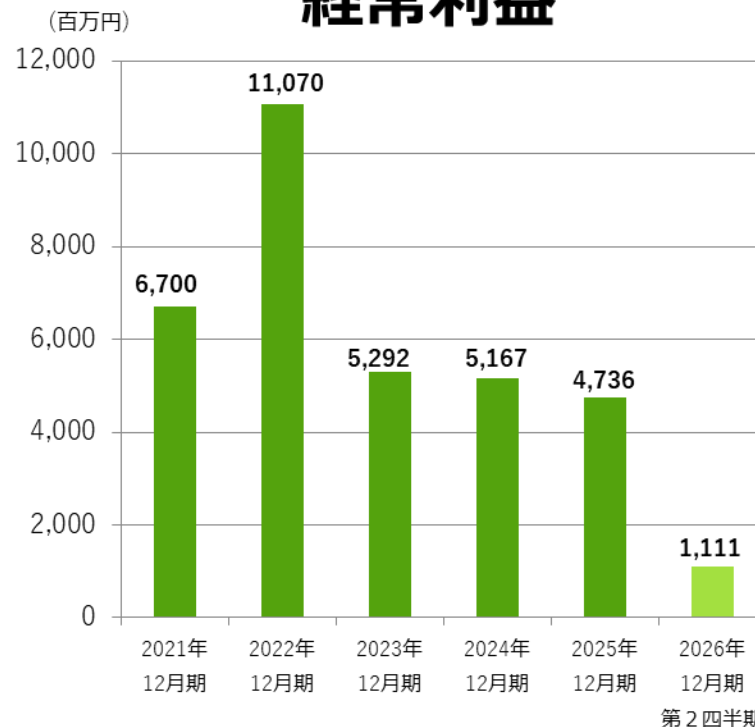


- **2026年(中間)：**新型コロナウイルス感染症の感染規模逡減により、遺伝子検査キットの需要がさらに減少、抗原キットの需要は維持されるも、売上高・利益は減少（前年同期比）
- **2023-25年：**新型コロナウイルス感染症の5類移行により遺伝子検査から抗原検査へシフトし、遺伝子検査キットの需要は減少したが、一定レベルの売上高・利益は確保
- **2021-22年：**新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景に、全自動遺伝子解析装置 Smart Gene、遺伝子検査キット及び各抗原キットの需要が拡大し、大幅な増収増益

売上高



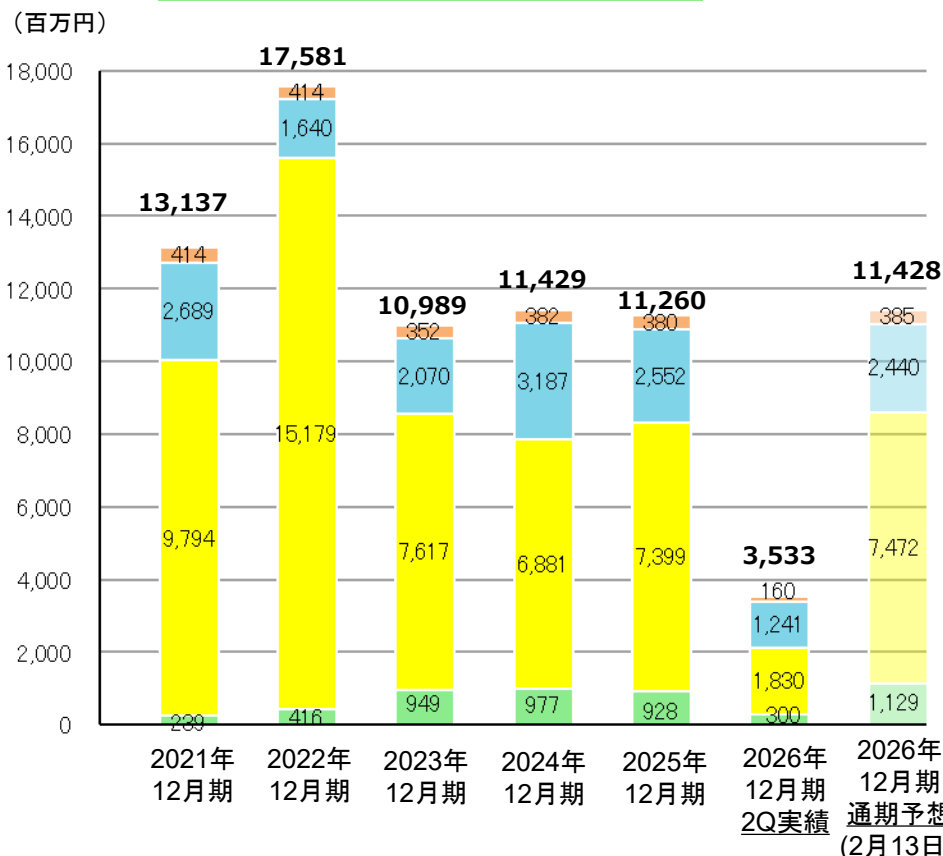
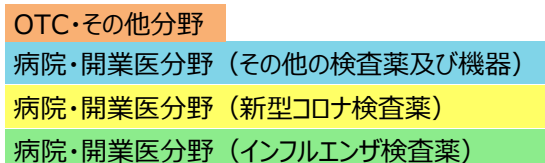
経常利益



2026年第2四半期（中間期）決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2026年第2四半期実績（3,533百万円 前年同期比 11.1%減）

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響により、遺伝子検査キットは減少、抗原キット(COV/FLU同時検出含む)は前年同水準を維持
- インフルエンザは微増、その他の感染症は、流行の規模や期間縮小に伴い、一部を除き全体的に需要減少

■ 病院・開業医分野（3,372百万円 同11.2%減）

◇ 新型コロナ検査薬（1,830百万円 同16.4%減）

- ・遺伝子検査キット(スマートジーン SARS-CoV-2)
2万7千テスト(前年同期は8万テスト)と減少も、陰性確認のための高精度な検査として一定の需要は継続
- ・抗原キット (CoV/Flu同時検査、CoV単独、銀増幅法含む)
計240万テスト(前年同期は242万テスト)と前年同水準維持

◇ インフルエンザ単独検査薬（300百万円 同1.3%増）

- ・2026年2月にB型を中心に感染が再拡大したものの、CoV/Flu同時検査の需要増加の方が大きかったため微増

◇ その他の検査薬及び機器（1,241百万円 同5.2%減）

- ・全自動遺伝子解析装置Smart Geneの累計販売台数は約6,000台
- ・その他の感染症項目の検査薬は、増加項目もあるが、前期流行の反動による減少の影響により、全体的には需要が減少

■ OTC・その他分野（160百万円 同10.6%減）

◇ 妊娠検査薬及び排卵日検査薬

- ・市場環境の変化のなか価格競争が激化しており需要が減少

2026年第2四半期（中間期）決算実績 損益計算書 P/L（前年同期比）



➤ 売上高	3,533百万円	（前年同期比 11.1%減）
➤ 経常利益	1,111百万円	（前年同期比 20.5%減）

✓ 売上高 : 新型コロナウイルス感染症の感染規模の逡減や5類移行の影響により、新型コロナウイルス遺伝子検査キットは減収、抗原キットはインフルエンザ流行により同水準を維持、インフルエンザ単独は微増、その他感染症項目は前年程の流行がなかったため減収

✓ 経常利益 : 売上高減少及び売上構成比の変化に伴い、売上総利益が減少

（百万円）

	2025年12月期		2026年12月期			
	中間期実績		中間期実績		前年同期比	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %
売上高	3,976	100.0	3,533	100.0	△443	△11.1
売上総利益	2,823	71.0	2,403	68.0	△420	△14.9
販売費及び一般管理費	1,347	33.9	1,406	39.8	59	4.4
営業利益	1,476	37.1	996	28.2	△479	△32.5
経常利益	1,397	35.1	1,111	31.5	△286	△20.5
中間純利益	1,020	25.7	822	23.3	△198	△19.4

2026年第2四半期（中間期）決算実績 貸借対照表 B/S（資産）



- 主に新型コロナウイルス検査薬に係る売上債権の回収に伴い、売上債権が減少し、現金及び預金が増加

（百万円）

	2025年 12月末	2026年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	19,580	18,268	△1,311	
現金及び預金	10,825	13,057	2,231	・売上債権回収に伴う増加
売上債権	6,225	1,541	△4,684	・主に新型コロナウイルス検査薬に係る売上債権回収による減少
棚卸資産	2,405	3,558	1,153	・主に抗原キット関連の増加
その他流動資産	123	111	△12	
固定資産	2,795	2,717	△77	
有形固定資産	2,264	2,236	△28	
無形固定資産	36	33	△3	
投資その他の資産	493	447	△46	
資産合計	22,375	20,986	△1,388	

2026年第2四半期（中間期）決算実績 貸借対照表 B/S（負債・純資産）



（百万円）

	2025年 12月末	2026 2Q末	増減額	主な増減内容
流動負債	2,660	1,382	△1,278	
仕入債務	482	684	201	
短期借入金	—	—	—	
その他流動負債	2,178	697	△1,480	・未払法人税等の減少△838
固定負債	1,029	1,049	19	
長期借入金	—	—	—	
その他固定負債	1,029	1,049	19	
負債合計	3,690	2,431	△1,259	
株主資本	18,684	18,554	△129	
資本金	464	464	—	
資本剰余金	274	274	—	
利益剰余金	17,947	17,817	△129	・25年12月期配当金△952 ・中間純利益822
純資産合計	18,684	18,554	△129	
負債純資産合計	22,375	20,986	△1,388	

2026年第2四半期（中間期）決算実績 キャッシュ・フロー計算書 C/F



- 営業活動によるキャッシュ・フローは、主に新型コロナウイルス検査薬に係る売上債権の回収及び税引前中間純利益により増加

（百万円）

	2025年2Q (1月～6月)	2026年2Q (1月～6月)	主な増減内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,528	3,261	・売上債権の減少（+4,684） ・税引前中間純利益（+1,111） ・棚卸資産の増加（△1,153） ・法人税等の支払（△1,048）
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,134	6,880	・定期預金の払戻（+8,548） ・定期預金の預入（△1,548） ・有形固定資産の取得（△116）
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,141	△968	・配当金の支払（△968）
現金及び現金同等物の増減額	△5,747	9,173	
現金及び現金同等物の期首残高	9,664	2,259	
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,916	11,433	



➤ 2026年下半期の見通し

■ 下半期見通し：5類移行後、新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の流行を予測することはより困難になったが、現在の流行状況により通期業績予想は達成可能と見込む

- ✓ **新型コロナ検査薬** ⇒ ・ 足元では夏場の流行状況は緩やかに拡大しており、一旦収束したのち、冬場に再拡大を予想
・ 抗原キット(CoV/Flu同時検査含む)は、下半期も高い需要が継続すると予想
- ✓ **インフルエンザ検査薬** ⇒ 過去2年の流行状況を踏まえ、2026/2027シーズンも流行の早期化及び急拡大の傾向が見込まれるため、下半期も高い需要が継続すると予想
- ✓ **その他感染症項目** ⇒ 近年の傾向から、各感染症項目で一時的な急拡大あるいは抑制を見込み、全体的には年間を通じて前年と同水準と予想

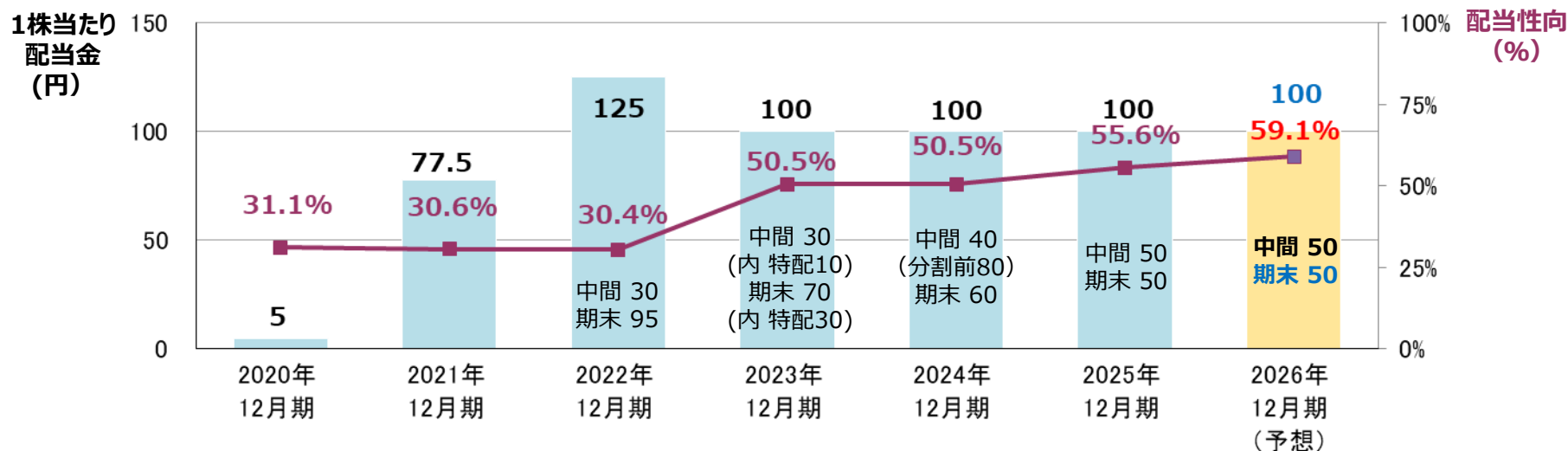
(百万円)

	2026年12月期				
	中間期実績		通期予想(2月13日公表)		中間期 進捗率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	
売上高	3,533	100.0	11,428	100.0	30.9
売上総利益	2,403	68.0	7,888	69.0	30.5
販売費及び一般管理費	1,406	39.8	3,474	30.4	40.5
営業利益	996	28.2	4,414	38.6	22.6
経常利益	1,111	31.5	4,437	38.8	25.0
当期（中間）純利益	822	23.3	3,220	28.2	25.5

配当方針

『業績に対応した配当を行うことを基本としつつ、配当性向、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案して決定』

- 2022年12月期まで ⇒ 配当性向30%
- 2023年12月期 ⇒ 配当性向30% + 特別配当 = 配当性向50%
※株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、特別配当を実施
- **2024年12月期より ⇒ 配当方針の変更「配当性向50%目標、中間配当と期末配当の年2回」**
※株主の皆様への利益還元の姿勢をより明確にし、かつ充実させるため配当方針を変更



I 会社概要

II 事業概要

III 2026年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（2月13日公表）

IV 今後の成長戦略

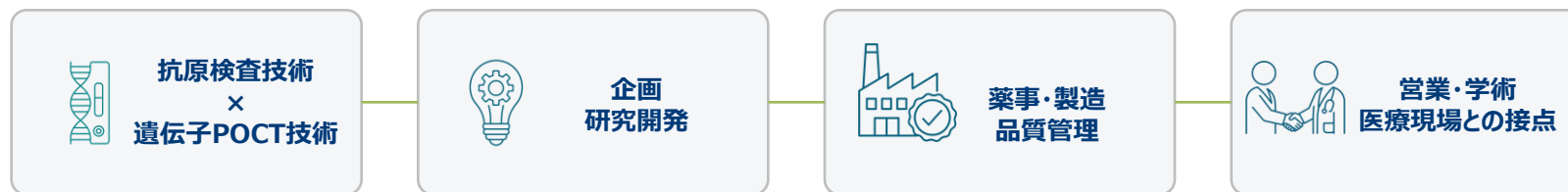
感染症POCTの高度化による診療価値の拡張



抗原検査と遺伝子POCTを基盤に、病原体の迅速な特定から薬剤耐性判定まで一体的に提供し、治療方針の選択を支援します。



成長を支える自社一貫体制



自社一貫体制を活かし、検査項目・診療領域・検査価値を連続的に拡張

*Smart Gene 後継機：Smart Geneの測定時間短縮を図った後継機。Turn Around Time（TAT）短縮への寄与を目指す。

抗原検査の収益基盤を活かし、遺伝子POCTを次の成長の柱へ

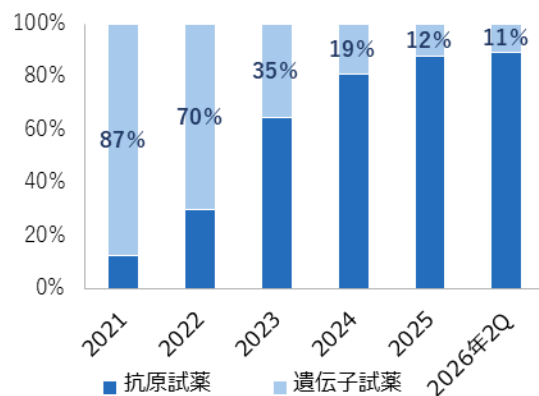


足元の収益基盤を維持しながら、Smart Gene設置基盤への新規試薬投入と検査価値の高度化により、持続的な成長を目指します。

足元の事業構成

抗原／遺伝子 売上構成比の推移

2021～2025年通期実績推移/2026年2Qは参考値



検査需要が遺伝子試薬から抗原試薬へシフトする中、抗原検査の収益基盤を活かし、Smart Geneの設置基盤をもとに遺伝子POCTの成長を目指します。

成長への重点施策



全自動遺伝子解析装置

Smart Gene®

約6,000台

Smart Gene累計販売台数

販売中7製品

既存試薬製品基盤

開発中5製品

試薬パイプラインの拡充

高付加価値化

薬剤耐性判定・治療選択支援

成長ドライバー

装置基盤
約6,000台

×

試薬項目
7製品 + 開発品

×

検査回数
運用性向上

×

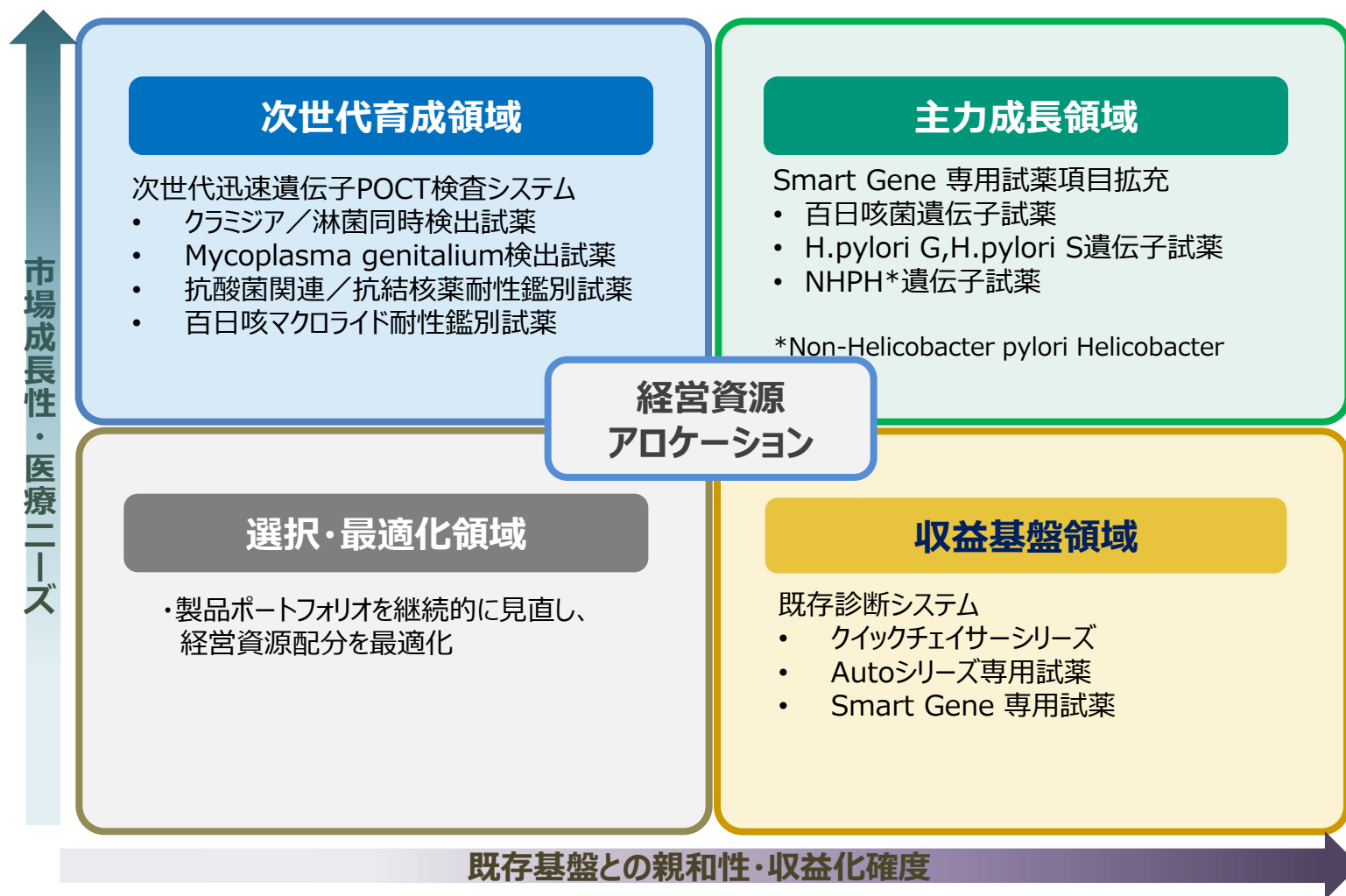
検査価値
薬剤耐性判定

抗原検査で培った収益基盤と医療現場との接点を活かし、
遺伝子POCTを次の成長の柱へ育成

成長性と事業親和性を踏まえた製品ポートフォリオ



収益基盤の強化と次世代領域の育成を両立し、感染症POCT事業の持続的な成長を目指します。



※本分類は、現時点の方向性を整理したものであり、具体的な投資判断・発売時期・売上目標は、開発・承認状況等を踏まえて精査します。

感染症領域における製品展開



呼吸器・消化器感染症で培ったPOCT基盤を、性感染症、抗酸菌・結核、薬剤耐性菌へ展開し、年間を通じた検査需要の獲得と治療選択支援への価値拡張を目指します。

領域	上市段階	今後の展開	提供価値
 呼吸器 感染症	インフルエンザ マイコプラズマ 百日咳など	百日咳マクロライド耐性変異識別試薬	小児科・内科領域での迅速な診断と抗 菌薬適正使用
 消化器 感染症	C. difficile H. pylori NHPH	H. pylori 耐性判定 NHPH の診療浸透	診断から除菌薬選択まで 一連の臨床判断を支援
 性感染症	—	クラミジア／淋菌遺伝子同時検出試薬 M.genitalium検出試薬	外注検査から院内迅速検査へ 当日診断・当日治療に貢献
 抗酸菌 結核	—	抗酸菌関連試薬 抗結核薬耐性鑑別試薬	確定診断と耐性情報の 迅速化により治療選択を支援
 薬剤 耐性菌	Resist-6	カルバペネマーゼ検出項目の展開 他の薬剤耐性因子への対象拡大	院内感染対策と 抗菌薬適正使用に貢献

年間を通じた検査需要が見込める領域へ展開し、感染症流行の変動に左右されにくい製品構成を目指す

装置・試薬・データを一体化した 次世代感染症POCTプラットフォーム構想



中長期的には、検査機器・試薬に加え、検査データの連携・活用も視野に入れ、感染症診療と医療DXを支える基盤構築を目指します。



※ ネットワーク接続・クラウド基盤・データ解析・AI活用・医療DXは将来構想です。セキュリティ・個人情報保護・関連法令への対応を前提に提供内容・時期を今後検討し、疫学情報の精度・提供時期を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先



株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

お問い合わせフォーム：https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir_contact

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。